



Christmas Red

クリスマスといえば、なんといっても赤。
 サンタクロースの故郷、北欧のクリスマスは、雪に包まれた無彩色の世界。
 窓の外の雪景色とは裏腹にクリスマスの飾りつけに赤を沢山取り入れま
 す。あらゆるものにクリスマス・レッドを取り入れ、色を忘れた外の風景を
 補い、心躍らせます。そのクリスマス・レッド、その由来はキリストが生まれ
 た時に次々と実を結んだ林檎の実や、ヒイラギの実、サンタクロースや妖
 精ニッセの帽子の赤にちなんでいるそうです。



クリスマス・レッドの植物として人気のあるポインセチアは、デンマークでユ
 ーレ・スチアーナ「Christmasの星」と呼ばれてとても人気があり、日本でも12月になるとフラワー
 ショップのみならず多くの場所で見かけるようになりました。

赤といえば、サンタクロースの着ている服も赤いですね。サンタクロースのモデルである「聖ニコラ
 ウス」はキリスト教の司教であり、古来、司教服が常に赤い服でした。この司教服の赤い色は、自ら
 も命や体をなげうってでも、信者達の幸せのために尽くすべき司教の覚悟、すなわち彼が流す血の
 色を示すと言われています。

Christmas Green



まず思い出すものは、ツリーとして使われるもみの木。もみの木は多くの木
 が枯れるクリスマスの時期にも葉をつけているところから「希望の木」とさ
 れ、古来から北欧の人々が特別な思いを寄せてきました。また、小さな葉
 が十字の形に生えるところから、キリストの十字架に結びつけられたりもし
 てクリスマスとは特別関わりの深いグリーンなのです。

もみの木のNO. 2的グリーンは、ヒイラギでしょうね。リースやラッピングに
 おしゃれに飾られています。葉っぱの棘はキリストの受難を、赤い実は
 キリストの血を表しています。ヒイラギには深い悲しみが隠されていたん
 です。ちょっと以外ですね。

この2つの他にもグリーンは使われているけど、そのほとんどが一年中葉を茂らす常緑樹なん
 です。一年中緑を茂らせているエバーグリーンには力強い生命力があって、永遠の命や春の訪れを
 象徴しているのです。

Christmas White

ホワイト・クリスマス＝素敵・きれい・ロマンティック…etc。
 クリスマスカラーのホワイトは、雪の色。純白で潔白で、聖なる意味
 を表すとともに、春を待つ北の大地の白でもあります。
 北欧の人々が心待ちにするクリスマスは雪に覆われた冬の間に訪
 れる春のようなお祭りかもしれませぬ。



Christmas Gold



クリスマスツリーのでっぺんの金の星。名前を知っていますか？
 この金の星は「ベツレヘムの星」と呼ばれ、キリストが生まれた時に、東
 の空にひときわ大きく輝いた星を表現しています。実はこの星、未だ何
 の星なのか謎に包まれています。しかし、この美しく輝くゴールドには、ベ
 ツレヘムの星の輝きと高貴さや大切さといった意味が込められているん
 です。

今年のクリスマスはWhiteクリスマスになるかな・・・？

みなさんも素敵なクリスマスをお過ごしください☆